

“共に”発展することを理念に 限界を超えるモノづくりにトライ

株式会社昌和製作所（名古屋市天白区） 代表取締役 中川俊一氏



工場外観

■株式会社昌和製作所

本 社 愛知県名古屋市天白区福池1-107
TEL.052-895-2023
創 業 1956（昭和31）年
設 立 1964（昭和39）年
代 表 者 中川俊一
社 員 数 20名
事 業 内 容 業務用冷蔵庫・製氷機械部品、配膳車部品、
PCケース、自動販売機関連部品、ゲーム機
関連部品、医療機器関連部品等の製作
U R L <http://www.showass.co.jp>



昌和製作所は冷凍機部品のプレス加工から事業をスタートし、その後現在地に工場を移転し、精密板金加工にも業容を拡大、現在に至っている。常に取引先の現場に入り、取引先の視線に立って行う設計から生産工程までのトータルな技術提案に定評がある。

同社で強力なリーダーシップを発揮しているのが、ラグーマンの中川俊一社長。学生時代は名門早稲田大学でレギュラー、さらに社会人時代はトヨタ自動車で日本一に輝くなど、華やかな経歴をもつ。この貴重な経験が社長業にも活かされ、同社の成長の原動力になっている。

そして同社は今年、記念すべき創業50年を迎え、新たな挑戦に取り組み始めた。

ラグビーの教えが いまの自分をつくった

——中川社長はラグビーからどのようなことを得られましたか。

中川 多くをあげられますが、なかでも貴重だったのは“限界を超える”体験です。特に大学最後の夏の菅平合宿はまさに限界を超えた練習でした。当時は圧倒的に明治大学が強かったのですが、菅平では打倒明治を目標に、歩けなくなるまで練習し、これ以上できないところまでやった結果、勝てた。目標をもち、決して気持ちで負けなければ必ず成し遂げられる。大きな自信になりました。

——トヨタ自動車では社会人として学ぶことも多かったと思います。

中川 トヨタでは社会人の厳しさを教わりました。ラグビー部員の前は一社員であったため、練習は仕事のあとです。当時も忙しく、練習終了後はまた仕事と、帰りはよく日付が変わっていました。しかしおかげで現場では可愛がられ、いろいろと教えてもらい、無理も聞いてもらえました。またト

ヨタの特徴である“現地現物主義”を体験できたことも大きかったです。何ごと現場から問題点を見つけ、カイゼンを進める。いまの仕事の進め方はトヨタ時代に学んだことが活かしています。

——その後父親の会社に入って社員から社長へと立場が変わり、どのような会社を目指しましたか。

中川 経営理念として「共に」「安全」「品質」の3つを掲げています。この中で一番大切なのが「共に」です。そして「安全」「品質」になります。安全と品質を前提に、エンドユーザーも含めたすべてのお客さま、そして社員、さらに社会と“共に”発展していくことが当社の理念です。成果は1人のものではありません。それに携わるすべての人々のサポートがあって初めて生まれるのです。ここまで来られたのも「共に」があればこそで、今年の名刺には感謝の気持ちも含め、「おかげさまで創業50年」と印刷しました。

——まさにOne for All, All for One（1人はみんなのために、みんなは1人のために）ですね。

中川 ウイングというポジションからトライをあげる機会も多かつ

たのですが、決して自分だけが目立つような派手なガッツポーズはしませんでした。大学でこの精神をよく教えられていたからです。——一流の指導者からヒトづくりのヒントは得られましたか。

中川 それは叱ると怒るの違いです。叱る裏には愛情がありますが、怒るは感情が表に出てしまいます。感情が先走ってはヒトは動きません。相手を思いやり、愛情をもって接することで、ヒトは素直に受け入れ、行動に移るのです。指導者の愛情がチームを一丸とし、不可能を可能に変える。大学最後の早明戦がまさしくそうでした。これを忘れることなく、現在まで社員に接する基本にしています。

ISO取得を通して ヒトづくりに取り組む

——創業50年を迎える今年、新たにISO取得に取り組まれました。狙いをお聞かせください。

中川 取引のためにする、形だけのISO取得にはしたくなかった。取得するからには会社の中身を充実させなくては意味がありません。そこで板金業界に精通してい

経営理念

「安全」と「品質」を第一に、顧客、取引先、社員、社会と「共に」発展していく



るアマダの提案を受け、ISO取得に踏み切りました。

——中身の充実も業務の仕組みを整えることもそうですが、それ以上にこれを動かすヒトの育成にもつながると思いますか……

中川 私1人ですべてを見る体制を少しずつ変えていく必要があります。そのためには社員の能力アップが欠かせません。ISO取得をそのよいきっかけにしたい。4月から1年をかけてじっくりと実のなるよう取り組んでいきます。

——最後に今後目指すモノづくり像について、お聞かせください。

中川 当社の強みは取引先の現場を知り尽くしたVE提案にあります。この強みを活かしつつ、これまで手掛けていなかったHPの活用やISOを通じた人材育成に取り組んでいきたい。そして早稲田のラグビー部が限界を超えられたように、当社も社員一丸となって限界を超えるモノづくりに挑戦していきたいと考えています。